

鳥取 会報

第 6 号

2002年 1月



水鳥の聖域(コハクテヨウの南限集団越冬地といわれる) 米子水鳥公園 提供 鳥取県庁

目次

新年にあたって	2	シルバー人材センターの紹介	8~9
平成13年度事業実施状況	3~5	会員の広場	10~11
平成13年度SP事業実施(計画)状況	6	講習会に参加して	11~12
健康シリーズ⑥ 中高年の緑内障について	7	鳥取県内のシルバー人材センター設置状況	13
		新設立シルバー人材センターの紹介	

社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

新年にあたって



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

会長 川口 貞良

新年あけまして、おめでとうございます。皆様には、新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

当連合会は、発足以来三年が経過し四年目の新春を迎えましたが、ご承知のとおり、昨年も数年続きの景気低迷等により雇用情勢は大変厳しいものがありました。その中で当連合会の事業実績は、平成十二年度の上半期と平成十三年度の上半期と比較いたしますと、会員数は、四千三百人で（七・七パーセント増）受注件数は、一万四千九百件で（十七・七パーセント増）・契約金額では、六億五千三百万円（八・七パーセント増）となり、いずれも十三年度が伸びています。

これも、拠点シルバー人材センターをはじめ、鳥取労働局・鳥取県及び各市町村の関係者各位のご理解、ご協力により、シルバー人材センター業務を順調に発展させることができましたことに、心からお礼申し上げます。

また、当連合会としての重要な事業として

シルバー人材センター設置促進事業でありましたが、関係機関及び地元との皆様方のご協力をいただき、昨年新しく大山町、東郷町、河原町及び名和町シルバー人材センターが設置され、現在県下で二十四ヶ所のシルバー人材センターと、二十七市町村でシルバー人材センター事業が運営されることとなりました。

また、鳥取・島根県連合同役員研修交流会及び経験交流大会をはじめ各種の会議や技能・介護講習等のシニアワークプログラム事業につきましては、各関係機関や各種事業主体等のご支援をいただき、シルバー人材センター事業と併せて高齢者の雇用機会の確保・提供等について成果があったと確信しております。

さて、我が国は長期に亘り景気の低迷が続き、昨年九月に発生いたしました米国での同時多発テロ事件等の影響もあり、国内の完全失業率も五・五パーセントと最悪となり、相

次ぐ企業の倒産や、リストラが進み雇用失業情勢は極めて厳しいものでした。

このような中で、本県のシルバー人材センター事業がいずれにおいても過去の実績を上回ったことは、シルバー人材センター事業が次第に地域に根ざして、着実に成果を上げていることはご同慶に存ずる次第であります。

我が国の高齢化は、世界一の速さで進展し世界に例を見ない超高齢化社会を迎えようとしています。このような情勢の中でシルバー人材センターの果たす役割は、ますます重要になるものと確信しております。

そのためには、厚生労働省の委託事業として「シニアワークプログラム事業」では、雇用に繋げる技能講習及び介護講習を実施しております。

また、今年度より国の事業として、高齢者が多様な社会参加を総合的に支援する地域高齢者社会参加促進事業（いきいきシルバー活動推進総合事業）を実施して、高齢者の福祉の増進を図って行く事に行っています。

このような社会的な情勢を踏まえ、当連合会としましては、今後とも県下シルバー人材センターと密接な連携を図ると共に、国・県等行政機関のご指導ご支援を得ながら、事業のより一層の発展のために努めてまいりたいと考えております。

最後に、今後とも皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。新年のご挨拶といたします。

平成十三年度 事業実施状況

臨時理事会の開催

平成十三年十月二十四日(水)午後一時三十分より「ホープスターとっとり」に於いて会長以下各理事の出席のもと、平成十三年度第一回臨時理事会を開催しました。

当日審議された議案は次のとおりでした。

第一号議案 連合会新規会員の加入について

第二号議案 連合会の中長期基本計画策定委員会への設置について

第三号議案 連合会平成十三年度事業計画(追加)案について

第四号議案 連合会平成十三年度収支補正予算書(案)について

平成十三年度 鳥取・島根 シルバー人材センター連合 役員交流研修会開催

去る平成十三年十一月十九日・二十日の二日間にわたり米子市の国際ホテルにおいて、鳥取・島根シルバー人材センター連合の役員百十名が参加し、鳥取・島根合同の交流研修会を開催いたしました。

研修会には、来賓として鳥取労働局の職業安定部長、鳥取県から商工労働部次長をお迎えし、又全国シルバー人材センター事業協会の本田 授常務理事に講師としてご来県を賜り「シルバー人材センターの今後の方向につ



いて」の講演をいただき出席者全員熱心に勉強しました。

二日目は、シルバー人材センターの事例発表に移り、鳥取県から智頭町シルバー人材センターの石谷理事長が、また島根県から益田市シルバー人材センター事務局長、大石政文氏から、それぞれ事例発表をいただき、質疑応答の後閉会しました。

小規模シルバー人材センター 事務局長会議開催

去る七月二十三日倉吉シティホテルにおいて、国庫補助対象外のシルバー人材センターを対象として、事務局長会議を開催しました。当日は、連合会の会長及び宇野・川田両理事が助言者として参加。

国庫補助対象シルバー人材センターとの合同会議では、意見が出にくい点もありましたが、今回は、事業運営上の問題・課題・疑問等について活発な意見交換を行い多大の成果を得て閉会しました。

国庫補助対象シルバー人材センター事務局長会議開催

当連合会では、県下全体のシルバー人材センター事務局長会議を議題が整合しないため小規模シルバー人材センターと国庫補助対象シルバー人材センターの事務局長会議を別々に開催することとし、去る九月二十五日に国庫補助対象のみのシルバー人材センターの事務局長会議を開催しました。

議題は、シルバー人材センター職員の指導者養成研修会の職員の推薦、全国連合会事務局長会議の概要の説明等を行いました。

いきいき健康福祉まつり 二〇〇一の開催

明るい長寿社会を推進し、世代間の交流を促進するため、鳥取県社会福祉協議会の主催のもと、昨年に引き続き県内の東部地区、中部地区、西部地区の三会場で開催された「いきいき健康福祉まつり二〇〇一」に参加し、地域住民とふれあい、シルバー事業のより深い浸透をはかることを目的に各会場にシルバー人材センターのコーナーを設置し、連合会及び会場地域のシルバー人材センターが参加し、来場者に広報資料を配布してPRに努め、又事業を紹介するパネルの展示、会員の手作り作品の展示、会員の就業状況の写真の展示等行い事業の広報活動に努めました。

なお、開催日は次のとおりでした。

中部会場

平成十三年九月九日

倉吉体育文化会館

西部会場

平成十三年九月三十日

米子産業体育館

東部会場

平成十三年十月二十日・二十一日二日間

県立福祉人材研修センター



西部会場



中部会場

安全就業研修会開催

シルバー事業は、安全就業が最も大切であり、去る十二月十八日に倉吉シティホテルに於いて、県下各シルバー人材センターの役員・会員等六十九名の参加のもと、安全就業研修会を開催しました。

シルバー人材センター事業安全就業標語の表彰、また米子広域シルバー人材センター事務局長宇野治巳氏の基調講演、倉吉市シルバー人材センター事務局長川田壽雄氏の事例発表等の後意見交換を行い良い勉強になりました。



東部会場



安全就業標語の表彰作品

○ 優秀作品

手慣れた作業に要注意

初心にかえって安全就業

須田 達夫

(社)米子広域シルバー人材センター

○ 入選作品

一人ひとりが真剣に 安全チェックで無災害

木嶋 康雄

(社)倉吉市シルバー人材センター

一瞬の無理と油断が 事故のもと

成瀬 克巳

(社)鳥取市シルバー人材センター

らよっと待て 安全確認 もう一度

森 本礼子

(社)鳥取市シルバー人材センター

○ 佳作

気どひきしめる きれいな作業に 光る汗

川上 正治

日野町シルバー人材センター

安全は 急がずあせらず ゆとり持ち

磯田 孝志

(社)倉吉市シルバー人材センター

声かけ合って働いて 今日も一日事故はなし

牧田 忠

(社)倉吉市シルバー人材センター

チョット待て 安全チェックが最優先

吉田 和子

(社)倉吉市シルバー人材センター

老いを知る これぐらいと思う心に すきま風

福永 金一

(社)米子広域シルバー人材センター

祝 設立二十周年・十周年

記念式典開催

社団法人 鳥取市シルバー人材センターは昭和五十六年に設立されて以来二十周年となり昨年五月三十日に二十周年記念式典が、また、社団法人 境港市シルバー人材センターは、平成三年に設立され、十周年目を迎えたため去る十月四日にそれぞれ盛大に記念式典が開催されました。

平成十三年度

シニアワークプログラム事業実施(計画)状況

訪問介護員養成講座2級課程

倉吉会場・鳥取会場・米子会場で実施

シニアワークプログラム事業は、高齢者の雇用就業機会の確保を促進することを目的

に実施しており、今年度は技能講習・介護講習を県下で十六回計画実施しております。

各講習とも元気な高齢者が熱心に講習を受講されました。

技能講習第1種

講習名	開催地区	開催月日	開催日数	備考
塗装	鳥取会場	07.09～07.13	5	受講者19名・修了者19名
パソコン(中級)	倉吉会場	07.24～08.09	6	受講者19名・修了者19名
パソコン(初級)	智頭会場	08.06～08.10	5	受講者20名・修了者20名
接客サービス	米子会場	09.10～09.14	5	受講者18名・修了者18名
パソコン(初級)	鳥取会場	10.15～10.19	5	受講者18名・修了者17名
オフィスクリーニング	米子会場	11.05～11.09	5	受講者23名・修了者23名
左官・ブロック	鳥取会場	11.26～12.04	6	受講者18名・修了者16名
観光ガイド	倉吉会場	11.26～12.04	7	受講者19名・修了者17名
パソコン(初級)	米子会場	01.15～01.21	5	受講者 名・修了者 名
接客サービス	倉吉会場	02. ～	5	受講者 名・修了者 名

介護講習第1種「2級課程」

講習名	開催地区	開催月日	開催日数	備考
訪問介護員養成講座	倉吉会場	07.02～09.10	20	受講者17名・修了者17名
訪問介護員養成講座	鳥取会場	08.29～10.04	20	受講者20名・修了者20名
訪問介護員養成講座	米子会場	11.01～12.07	20	受講者20名・修了者20名

介護講習第1種「3級課程」

講習名	開催地区	開催月日	開催日数	備考
訪問介護員養成講座	鳥取会場	06.01～06.20	10	受講者18名・修了者15名
訪問介護員養成講座	米子会場	07.05～07.25	10	受講者20名・修了者20名
訪問介護員養成講座	境港会場	10.01～10.19	10	受講者24名・修了者23名



技能講習実習風景



介護講習実習風景

健康シリーズ⑤

中高年の緑内障について



労働福祉事業団
山陰労災病院
眼科部長
河合 公子

目はピンポン玉くらいの大きさの体の器官ですが、そこには非常に多くの病気を呈してきます。その中でも最近テレビや新聞などで話題になっている緑内障についてお話しします。

■ 緑内障とは

緑内障は、かつて「あおそこひ」といわれていた病気で、何らかの原因で視神経が障害され、視野障害を起こします。わが国では、40才以上の30人に1人は緑内障であり、現在では糖尿病網膜症に次いで中途失明の第2位を占めるといわれています。

緑内障には大きく解剖学的構造から閉塞隅

角緑内障と開放隅角緑内障があります。

閉塞隅角緑内障は、60才以上の女性に多いといわれています。発作的に急激な眼圧上昇をきたすもので、頭痛、悪心、嘔吐、視力障害をきたしてきます。そのため内科あるいは脳神経外科へ誤って受診することもあります。

開放隅角緑内障は眼圧が上昇して発症する原発開放隅角緑内障と眼圧は正常範囲ではあるが緑内障性視野異常を呈してくる正常眼圧緑内障などがあります。

この正常眼圧緑内障は緑内障患者の約60%を占めるといわれています。開放隅角緑内障は眼圧が非常に高くなれば殆ど自覚症状はなく知らずに過ぎてしまう傾向があります。

■ 検査

緑内障患者の発見にはいずれにしても眼科受診が必要です。眼圧検査をすることで、まず、眼圧が高いのか正常範囲であるのかを区別することができます。

次に、眼圧が正常範囲にあっても眼底の視

神経乳頭などの状態を見て、緑内障性変化を示しているか否かを見分けます。緑内障が疑われる場合は視野検査をすることによって、緑内障か否かを判断をしていきます。

■ 治療

緑内障と診断がつくと、治療が始まります。緑内障の治療は進行を止めることを目的にしています。点眼薬1剤あるいは多剤を使用して眼圧下降を計ります。たとえ正常眼圧緑内障であっても眼圧下降は有効だといわれています。最近では種々の作用の薬剤が開発され、症状あるいは病態により選択枝が増えています。点眼薬だけでは眼圧下降が不十分の時は、外科的手術によりさらに眼圧下降を計ります。先ほど述べました閉塞隅角緑内障の急性発作に対しては手術的に眼圧下降を計る必要があります。

緑内障だけではなく、どの病気についてもいえることですが、早期発見早期治療がなによりです。40才を過ぎたら年に1回は眼科検診を受けることを勧めます。

シルバー人材センターの紹介

用瀬町シルバー人材センター

地域住民から信頼される

事業を目指して

用瀬町は、古くから「流しびなの町」として知られ旧暦の三月三日、男女一對の紙びなを棧俵にのせ菱餅や桃の小枝を添えて、千代川に流す民俗行事を行う情緒豊かな町です。人口四、四五二人その内高齢者一、二二三人で高齢化率二七・四六％で県内でやや高齢化率の高い町です。

一、センターの状況

用瀬町シルバー人材センターは、平成元年四月にミニシルバー人材センターとして会員六十五人で設立をしました。当時は町内に誘致企業三社あり受注量、就業率も年々上昇の傾向にあったが経済動向の影響を受けて企業からの受注規模が縮小され、また、廃業などによって現在では就業率が低下している。しかし開拓専門員設置助成を受け、個人、一般家庭等からの短時間就業が若干伸びている。

二、会員の組織活動

センター事業の運営上当初から会員との連絡、屋内作業所（事務所に隣接）等から老人福祉センター内に事務局を置きセンター運営を行っている。理事は各地区より選出で男性六名、女性四名計十名で構成し年三回以上開催し執行に関する重要事項を決定している。主な協議事項に安全就業、就業開拓、会員相互の連帯意識の高揚についてが議題である。会員の親睦を図ることも重要で年二回小旅行を実施し会員相互の連帯意識を深めている。また、グループ活動も活発でカラオケ教室、手芸教室等実施している。



剪定作業風景



会員の手芸教室



襖張り作業風景

北条町シルバー人材センター

就業を通じて地域社会に

心豊かなふれあいの輪を

北条町は、県中央部に位置し、早くから砂丘畑を利用したブドウやラッキョウなどを生産する農業地帯でしたが、近年、住宅地として造成が相次ぎ、全町世帯の三分の一を新興住宅世帯が占めるという新旧協同地域として発展しているところです。

一、センターの概要

北条町シルバー人材センターは、平成四年五月、中部地区最初の小規模センターとして設立され、社会福祉協議会の一事業として出発しました。

平成六年にセンター専任職員が配置され、平成八年には公共施設全ての植木の管理、除草、室内清掃などを受注し、契約金額が前年度の約二倍の千三百万円に達するなど、事業に活気が出て来ました。平成十年には、会員の自主運営をめざし、理事自ら各々担当を分担し、総会や会員研修の企画運営、シルバーだよりの編集、班長会の開催など運営に関わったり、各集落に世話人を決め、文書配布やシメ飾りの配達集金など協力を促し意識を高めてきました。平成十二年には長年の念願であ

りました作業所や物置が整備され、本年度は軽トラックの購入やパソコンの導入

など施設環境が整ってきたところです。

現在、会員は男女半々で百二名、平成十二年度決算で契約金額は前年度の十五%増の千九百万円（公共契約金額は四十二%）、延べ人口は十二%増の五千六百人口と毎年少しずつですが実績を伸ばしています。

二、今後の課題

一つは、自主運営活動を定着していくためにリーダーの育成や人材の発掘が必要であること。二つに会員の意識変化への対応。三つに会員の高齢化と後継者育成の問題。四つに就業開拓の必要性など課題はたくさんありますが、理事及び会員の皆さんと共に地域社会に心豊かなふれあいの輪を広げるため、これからの北条町シルバー人材センターのあり方を考えていきたいと思っています。



独自事業のしめ飾り作業風景



網戸張り講習会

会員のため

シルバー人材センターの

会員として思う



（株）米子広域シルバー人材センター 理事

國頭 重 遠

シルバー人材センターに入会したのは平成二年、まず手始めに環境整備班で運動公園の草取りからスタートしました。しかし、私にとって無理な労働だったのでしようか、数カ月の後血圧が上がリドクター・ストップ。しかし、幸いにも翌年に第一希望のワープロが導入され、ときどき仕事がありました。長年の間にはいろいろやりましたが、デパートでの繁忙時の梱包や美術展の係、交通量調査その他でした。今、継続的にしているのは、会社の社内報の編集・校正、シルバー日より編集委員、パソコンでの英・和入力などです。昭和六十二年に国家公務員を定年退職してから、なにか社会と関係したい…とセンターに入ったのですが、爾來十年余、とかく責任と緊張の現役のときと違い、別な分野での仕事は気分一新、何でもやってみました。また、多くの知人もできまし、発注先での今の息吹に接する機会もあって結構充実（？）した第二の人生を送っています。

昨年からは会員理事に選任され、いささか戸惑いながらもセンターのために微力を尽くしたいと思っておりますが、まず考えるのは、会員の就業機会の不偏と、必ず来る老齢に伴う後継者育成の問題です。それには、「共働・共助」の心がけとシステムの推進が必要であると思う昨今です。

少子・高齢化の現代、我々シルバー・パワーを社会の一員として発揮したいものです。

シルバー人材センターから
ゴールド人材センターへ



（株）智頭町シルバー人材センター 事務局長

浅見 康 郎

平成十年度高齢者の生き甲斐対策として、智頭町シルバー人材センターが発足し相談員として勤務を致しました。

まず、当センターのPRと、技術を身につけて戴くため「襖、障子張り講習会」を開催したところ好評で、会員の中から他の講習会も、との声があり「剪定技術講習会、介護入門講習会」等々毎年数回行っています。特に「介護入門講習会」は、各地区公民館を会場に対象者の幅を広げています。

智頭町は高齢者が多い為、当センターでは「介護移送サービスシステム、農耕システム、

生き甲斐対応型「アイサービス」等独自でユニークな事業を行っています。

現在高齢化率は二九%となり、高齢者が、高齢者を支え助け合って行かなくてはならなくなっています。昔で言われた、地げの油として又、大互助会として会員の生きがいを求めながら豊かな経験と知識、能力、技術を生かして、地域社会の発展と潤いのある住みよい郷土作りに貢献するため、現在全町民を対象に、シルバー人材センターに対するアンケートを取り集計中です。

今後、シルバー人材センターは、山間高齢者には、なくてはならない重要な、シルバーではなく「ゴールド人材センター」として、住民の宝として重宝されることを願います。



就業会員は早く基礎技術

を取得しよう



国府町シルバー人材センター 庭木剪定班長

河 口 寿 夫

シルバー人材センターの独立運営は、昨今の経済情勢では大変難しくなりました。

今考えれば、日本の高度経済成長が裏目に出て、消費は美徳とされた時代の反動を感じます。働きたくても職がなく、気力・体力があっても職がない、その一助として末端市町村で考えられたのがシルバー人材センターではないでしょうか。知恵と経験を生かし、仕事を求める時に大切な事は、その仕事の出来不出来であると思います。

『発注者の方に感謝されて初めて自他共に満足を感じる』それがやりがいです。その為には、就業会員の必要条件となる基礎技術を身につける事が、一番大切と思われます。安かろう、悪かろうでは、現代社会には通用しません。都会からサラリーマンの方が、営農を志しても、大切なのは基礎技術をマスターする事です。珍しい間は就農しても挫折で終る事が多く、要は各種機関で開かれる講座を利用し、専門知識を身につける事です。そこから得た技術で、例えば剪定では、間伐による採光・通風により病害虫を防ぎ、防除法を知る事。高齢者には色々な制限と、体力が

関係してきます。きびしい現代社会を生き抜くためには、自らの心構えが第一で、次に行政機関の援助があつて、シルバー人材センターは運営されて行くものと考えます。

地域の皆さんと共に



日野町シルバー人材センター 事務局長

砂 原 修

四十年間のサラリーマン生活、転勤族から解放されて定年退職、緑が溢れ、清らかな水の流れる日野町へ永住を決めて毎日が日曜日で退屈な日々を過しているところへ、昨年の六月、地域の先輩から日野町シルバー人材センターの事務局を手伝ってみないかと、声をかけていただき、人も地域も土地柄も不案内な私でありましたが、事務局を引き受けて一年四カ月、地域の皆さんの顔を知り、日野町の各地域を往来して地名を覚え、楽しく地域に溶け込んでおります。

しかし、今日までには、いくつかの不安をかかえて心細い日々を送ったものでした。仕事の注文をいただいても、この仕事はどの会員にお願いすれば良いのか、見積りはどうすれば良いのか、途方に暮れたものでした。でも、今では会員の皆さんに支えられ、地域の皆さんから便利屋さんとして喜んでご利用いただいております。当シルバー人材センター

の会員数は五十七名、平均年齢六十八才と若干熟年を迎えておりますが、草取り、草刈り、障子張り替えを中心に、会員一同、元氣一杯活躍していただいております。

お客様に仕事の出来映えを喜んで感謝の言葉をいただくとき、心から生き甲斐と充実感を味合うひとときです。これからも地域の便利屋さんとして会員の皆さんと頑張ります。

講習会に参加して

講習会の思ひ出



用瀬町シルバー人材センター

前 田 喜 道

定年後、介護講習の案内が目にとまり昨年の三級課程に続き、今年度、鳥取県シルバー人材センター連合会主催の二級課程に参加出来、無事修了させてもらえました。両親に出来なかった介護が誰かに少しでも、してあげられたらの思いで、講義、実習と興味を持って参加しました。今回受講された二十名の皆さんから、他市町村のサービスタ況を聞かせてもらったり、老人保健施設で、どんなサービスタの提供を行っておられるのか、家庭訪問で利用者の対応など興味ある講習会でした。

受講された皆さん、六十才前後の方が多く話しも良くあい気がねなく講義、実習に取りくめたと思います。現場実習の幸朋苑では、役職の方の案内で入らせてもらい、指示にしたがって介護介助の体験もさせてもらえました。又デイケアでは、少しでも利用者の皆さんと同じ立場になれるように心がけて、「実習生です。今日はいっしょにすごさせて下さい。よろしくお願いします。」と挨拶して、なじませてもらい、いろんな話をしている内に、移動とか又ベット介助など、名前を呼ばれてさせてもらいました。とてもたのしくすごさせてもらい自分のはげみに成りました。講習会の十九日間も終り、今では先輩ヘルパーに見習いアドバイスを受けて毎日頑張っています。

パソコン講習会に参加して



郡家町シルバー人材センター

三好輝明

「パソコン講習会に参加しないか」と友達を誘ったが次々に「年寄りには無理だ」と完全に拒否された。拒否されたことをバネにして七十才の手習いを始めることにした。講習会は毎日朝八時から午後四時三十分までの

六日間みっちりと手解きを受け、パソコンに初めて触れ、起動操作の入口に立ち、動作と応用使用の基本を教わり、又動作を終わる時にもルールに従って終わるようにするなど手順を充分に知る事が大切であることを教わった。

パソコンも電子機器である以上、自分の思う通りに働かせる為には、機器を利用する自分自身の頭の働きの応じて動作する。そのために、自分自身の頭の働きの試される事の連続であったが、テキストと廻りの人々の頭と手を借りて一つ一つの動作をしていくうちに、そのコツをつかむことができた。これからは自分で色々の作業をしたり、何等かの人生の役に立つように、インターネットに、文章の作成や、旅行の計画作りとその実行に、名所旧跡の勉強などに…ネットを最大限利用出来る家庭に居ながらにして世界の状況をライブで知れるように充分に手を染めてパソコンを利用できるように頑張りたいと思います。

介護講習を受講して



（柳境港市）シルバー人材センター

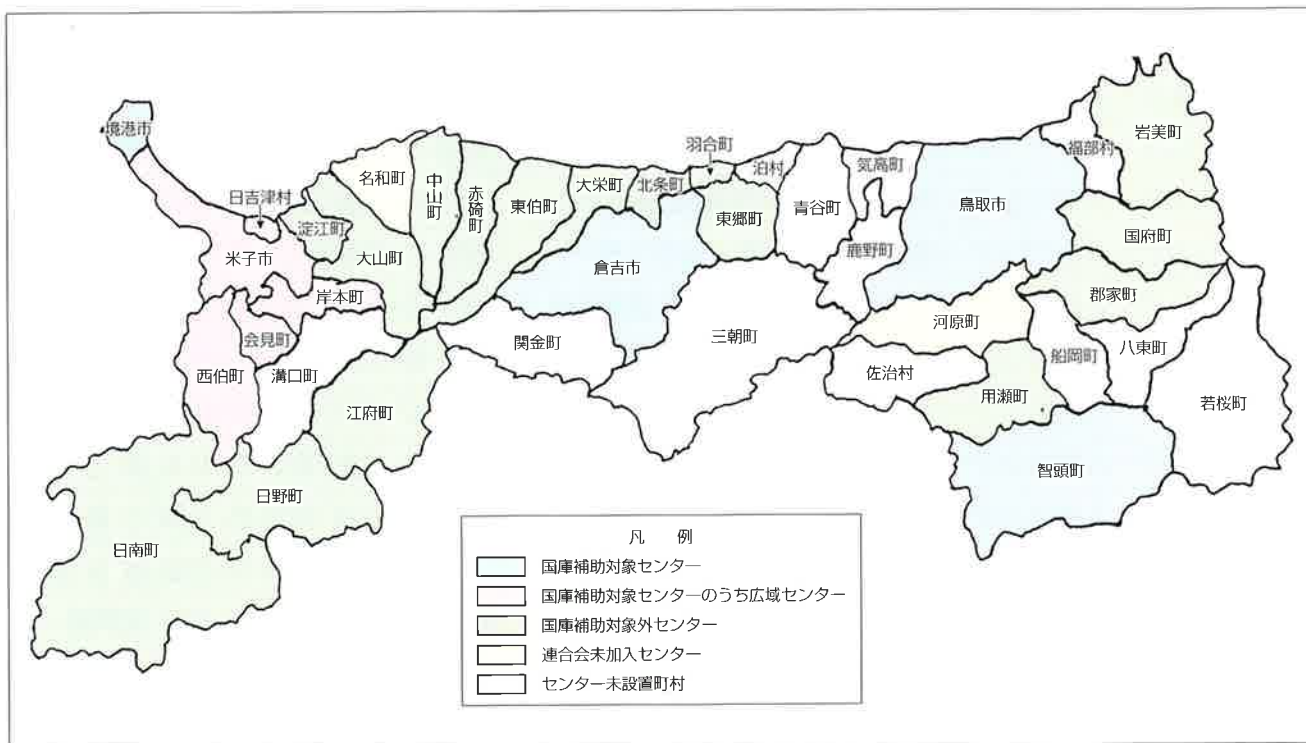
足立吉子

私の訪問介護員養成講座三級課程受講のきっかけは、訪問介護員の仕事に就いていた、いところからの誘いでした。今年三月に在宅介護

だった舅が亡くなり、これからどうしようかと思っている所でしたので、「そうだ、介護の経験を活かして、第二の人生『これだ』」と思い、迷う事なく申し込みました。参加してみると人権学習会に始まり、老人福祉の制度とサービス、共感的理解と基本的態度の形成、介護技術入門等々。講師の先生方の御家族の事など交えながらのお話が大変身近に感じ、楽しく学生時代に返った様な新鮮な気持ちで勉強させて戴きました。最後の日程に近づいた九日目は、ホームヘルプサービス同行訪問見学と、さかい幸朋苑でのデイサービスセンター見学でした。在宅サービス同行は、一日六回の訪問の方でした。その方は、耳が遠くリウマチで体が不自由な方でしたが明るく、ヘルパーさんをとて信頼されておられるのがとてもよくわかり、私もうれしく思いました。丁度その日の午後からは、ナマステホールで運動会があり、私もお手伝いさせていただきますました。さすがに皆さん玉入れ、パン食い競争となると笑い声や生き生きとした目をされ、私もつい玉入れに参加してしまいました。そしてお世話される方々の一生懸命さがすぐく伝わりました。これからの介護は『老いる』という事が『不安』から『安心』に変わりつつあるということ、改めて感じ介護講習を受講して思いました。同時に、二級一級とこれからチャレンジしていこうと思っています。受講させていただき本当にありがとうございました。

鳥取県内のシルバー人材センター設立状況

県内のシルバー人材センター設立状況は、下記掲載地図のとおり39市町村のうち、連合会加入の国庫補助対象センターは4市4町1村で6センター、国庫補助対象外センターは16町で16センター、連合会未加入センターは2町で2センターの合計24センターであります。未設置は9町3村となっております。ここまでに至るまでには、20年の歳月を経ております。ただし、平成9年からの5年間では毎年2～3センターが設立され合計13センターを数えておりますので、この調子でいけば、高齢化の速度に比例して設立機運は早まるものと思われま



新設立シルバー人材センターの紹介

名和町にシルバー人材センターの仲間が誕生しました。
 七月二十一日 設立総会
 会員数 33名



名和神社

後醍醐天皇を隠岐島から迎え王事に奮迅した名和長年公一族42名が祭られている

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会正会員

名 称	〒	所 在 地	電 話	FAX	代表者
(社)鳥取市シルバー人材センター	680-0823	鳥取市幸町73	0857-22-0050	0857-22-0051	歳岡輝巳
(社)米子広域シルバー人材センター	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633	0859-32-5823	川口貞良
(社)倉吉市シルバー人材センター	682-0864	倉吉市鍛冶町1-2971-2	0858-22-0870	0858-23-6101	福井春光
(社)境港市シルバー人材センター	684-0043	境港市竹内町40	0859-45-6661	0859-45-6583	岸本諒二
(社)南部広域シルバー人材センター	683-0351	西伯郡西伯町法勝寺170	0859-66-4011	0859-66-5330	中川正昭
(社)智頭町シルバー人材センター	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170	0858-75-2366	石谷文一
用瀬町シルバー人材センター	689-1211	八頭郡用瀬町別府31-1	0858-87-2302	0858-87-2369	和島利明
淀江町シルバー人材センター	689-3402	西伯郡淀江町淀江676-2	0859-56-6200	0859-56-6205	高野邦親
北条町シルバー人材センター	689-2103	東伯郡北条町田井46-2	0858-36-4527	0858-36-5056	牧田邦俊
中山町シルバー人材センター	689-3111	西伯郡中山町赤坂766-1	0858-49-3012	0858-49-3013	中井雅由
郡家町シルバー人材センター	680-0463	八頭郡郡家町宮谷254-1	0858-72-0021	0858-72-2793	有田 益
国府町シルバー人材センター	680-0142	岩美郡国府町麻生4-2	0857-22-1880	0857-22-1889	川上嗣夫
江府町シルバー人材センター	689-4403	日野郡江府町久連7-1	0859-75-2942	0859-75-3900	仲嶋勝利
岩美町シルバー人材センター	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511	0857-72-2511	大田弘道
東伯町シルバー人材センター	689-2352	東伯郡東伯町浦安152-3	0858-52-1001	0858-53-2035	米田義人
大栄町シルバー人材センター	689-2205	東伯郡大栄町瀬戸36-2	0858-37-4522	0858-37-4532	竹歳邦安
羽合町シルバー人材センター	682-0712	東伯郡羽合町上浅津123-2	0858-35-4130	0858-35-4130	磯江末夫
赤碕町シルバー人材センター	689-2501	東伯郡赤碕町赤碕1113-1	0858-55-1124	0858-55-1124	小泉忠好
日野町シルバー人材センター	689-5131	日野郡日野町黒坂1247-1	0859-74-0338	0859-74-0338	谷本忠光
日南町シルバー人材センター	689-5211	日野郡日南町生山511-5	0859-82-0374	0859-82-1027	青戸建一郎
大山町高齢者能力活用人材センター	689-3332	西伯郡大山町末長269-1	0859-53-4787	0859-53-4787	小原 惇
東郷町シルバー人材センター	689-0713	東伯郡東郷町旭83	0858-32-0828	0858-32-0834	中村和美

お 願 い

・投稿募集

俳句、短歌、川柳、会員の声
 俳句、短歌、川柳は二句(筒)まで
 投稿ご希望の方は左記までご連絡をお願い
 いたします。

米子市錦町二丁目三二

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

郵便番号 六八三〇八〇

電話番号 (〇八五九)三七二五三一

FAX番号 (〇八五九)三七二五三七

あ と が き

明けましておめでとうございます。
 既に就業されている会員の皆様ご苦労様で
 す。これからは、冬本番です。インフルエン
 ザなどに罹らないように気をつけて下さい。
 今回も、関係各位の御協力のお陰で第6号
 が発行できました。ご寄稿いただいた皆様に
 心から御礼申し上げます。これからも紙面の
 充実に向けてまいりますので、一層の御協力
 で愛読いただきますようお願い申し上げます。

会報 鳥 取 第6号
 平成14年1月1日 発行

発 行：社団法人 鳥取県シルバー
 人材センター連合会

所在地：〒683-0811
 鳥取県米子市錦町1丁目22番地

電 話：0859-37-2531
 F A X：0859-37-2537

印 刷：ニシキ印刷(株)
 鳥取県米子市灘町3-150
 電 話：0859-32-2250